

なぜアメリカ人の恋愛は日本人より情熱的なのか？

～恋人の「選択の自由」が愛を燃え上がらせる～

ポイント

- ・恋愛関係における情熱の強さに文化差を生み出す要因を検証。
- ・米国人の恋が情熱的なのは、米国社会は日本社会より恋人選びの自由度が高く競争が激しいため。
- ・恋愛関係の自由度と情熱度の関係を検討した初めての研究。

概要

北海道大学大学院文学研究科の結城雅樹教授らの研究グループ（筆頭著者・同博士後期課程 山田順子氏）は、人々が恋愛相手に感じる情熱は、恋人を自由に選べる社会ほど強いことを初めて実証的に示しました。

これまでの国際比較研究において、恋愛関係における情熱は、日本人や中国人などの東アジア人よりも、アメリカ人をはじめとする北米人の方が強いことが示されてきました。しかしこの現象は、「北米人は個人主義的で独立的」、「東アジア人は集団主義的で対人関係中心主義」という既存の文化心理学理論では説明できません。

これに対して本研究グループは、対人感情の適応機能（望ましい対人関係の維持に役立つ働き）を考える立場から、情熱の文化差の原因が、各文化圏における恋人選択の自由度の違いにあると考えました。北米社会は東アジア社会と比べて関係流動性^{*1}が高く、たくさんの異性と出会い、自由に交際相手を選ぶことができます。このことは、現在の交際相手よりも魅力的な異性と出会い、関係を乗り換えるチャンスが多いということでもあります。このため関係流動性が高い環境では、しばしば魅力的な恋人の奪い合いが起こります。そして恋人の奪い合いは「恋人から捨てられるかもしれない」という不安を引き起こしてしまいます。こうした中、恋人に対して情熱的な愛を持つことには意味があります。なぜなら、情熱は相手に対して自分が誠実であることをアピールする行動を生み出し、相手の不安を取り除き、ひいては安定的な恋愛関係の維持につながるからです。

本研究は、日本人とアメリカ人を対象とした調査を通じて、恋人を自由に選べる関係流動性の高い社会ほど、人々の恋人に対する情熱が高く、さらにパートナーに対する積極的な献身行動が見られることを示しました。これは、恋愛関係における情熱という、人間の配偶行動を支える基本的な感情の強さが、人々を取り巻く社会の特徴によって左右されることを実証的に示した初の研究です。本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業（JP15H03445）の助成を受けて行われました。なお、本研究成果は、2017年12月14日（木）公開の *Evolutionary Psychology* 誌に掲載されました。

【背景】

これまでの国際比較研究において、恋愛関係における恋人に対する情熱は、日本人や中国人など東アジア人よりも、アメリカ人をはじめとする北米の方が強いことが示されてきました。しかしこの現象は、「北米人は個人主義的で独立的」、「東アジア人は集団主義的で対人関係中心主義」という既存の文化理論では説明できません。これに対して本研究は、対人感情の適応機能を考える立場から、こうした情熱の文化差の原因が、各文化圏における恋人の選択の自由度、すなわち「関係流動性」の違いにあると考えました。

北米のように恋愛関係の流動性が高く、魅力的な恋愛相手を常に奪い合うような競争的な社会では、人々は交際相手が自分より魅力的な異性に乗り換えるのではないかと不安を感じやすくなります。情熱的な愛は、相手に対する献身的な行動を通じて相手の不安を取り除き、ひいては安定的な恋愛関係を維持すると考えられます。

【研究手法】

現在恋愛関係にある日本人またはアメリカ人を対象に、インターネット調査を行いました。調査では、恋人に対して感じている情熱の強さと、恋人に自分の誠実性を示す行動（他の異性との関わりを自主的に断ったり、恋人との心理的・身体的な距離を近づけたり、恋人をひいきしたりなど）をどのくらい行うかを、選択式で尋ねました。また、それぞれの社会における恋愛関係の選択の自由度の指標として、回答者の暮らす社会において、たくさんの異性の中から恋人を自由に選んだり、必要に応じて別の恋人に乗り換えたりすることが一般的にどの程度容易だと思えるかを尋ねました。

【研究成果】

日本人とアメリカ人の恋人に対する情熱の平均値を比較したところ、日本人よりもアメリカの方が恋人に対してより強い情熱を感じるということが示されました。またこうした情熱の社会差は、日本社会よりもアメリカ社会の方が恋愛関係の選択の自由度が高いことによって統計的に説明されることが示されました。また、恋人への情熱が強い人の方が、恋人に対して積極的に自らの誠実性を示す行動をとることが明らかになりました（図参照）。

【研究の意義と今後への期待】

本研究は、恋愛関係における対人感情である情熱の適応機能（恋人に対する自分の誠実性アピール行動を導き、恋人の不安を取り除き互いの関係を強化する）に注目し、こうした機能が恋愛関係を自由に選択できる社会で特に必要とされるとの仮説を初めて検証しました。この研究には、

- 1) 文化心理学に、心と行動の適応機能を考える社会生態学の観点を導入することにより、これまでの理論では説明できなかった情熱の文化差の原因を明らかにしたこと
 - 2) 人間の生存と繁殖に役立つ恋愛関係の形成とそれを支える心の働きに社会の性質が影響を与えるという新たな視点を進化心理学に示したこと
- といった学術的意義に加え、
- 3) 恋愛・結婚関係の自由度と流動性が高まるにつれて現代社会において、恋愛相手に情熱的な愛を持つことの意義を示唆した社会的意義があります。

今後の研究では、本研究の一般性を確認するために、東アジアや北米に限らず、世界の様々な地域において仮説を検証することが望まれます。

論文情報

論文名	Passion, Relational Mobility, and Proof of Commitment: A Comparative Socio-Ecological Analysis of an Adaptive Emotion in a Sexual Market (情熱・関係流動性・コミットメント証明：恋愛市場における適応心理に関する比較社会生態学的検討)
著者名	山田順子 ¹ ，鬼頭美江 ² ，結城雅樹 ^{1,3} (¹ 北海道大学大学院文学研究科， ² 明治学院大学社会学部， ³ 北海道大学社会科学実験研究センター)
雑誌名	Evolutionary Psychology (進化心理学の専門誌)
DOI	10.1177/1474704917746056
公表日	米国太平洋標準時間 2017 年 12 月 14 日 (木) (オンライン公開)

お問い合わせ先

北海道大学大学院文学研究科 教授 結城雅樹 (ゆうきまさき)

T E L 011-706-3056 F A X 011-706-3056

メール myuki@let.hokudai.ac.jp

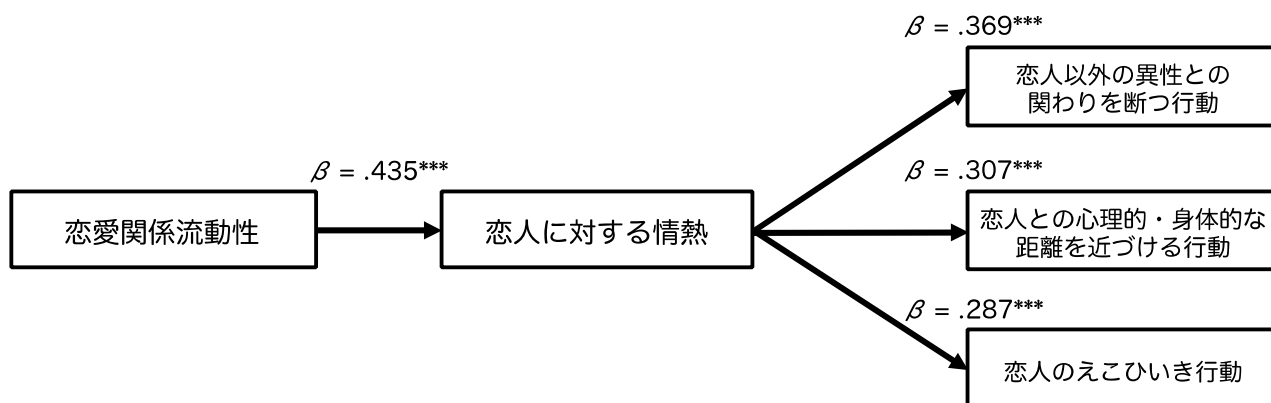
U R L <https://lynx.let.hokudai.ac.jp/~myuki/ja/>

配信元

北海道大学総務企画部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

【参考図】



恋愛関係流動性が高い環境に暮らしている人ほど、恋人に対する情熱が高い。また、恋人に対する情熱が高い人ほど、恋人以外の異性との関わりを断つ行動や、恋人との心理的・身体的な距離を近づける行動、そして恋人のえこひいき行動をとろうとする。 β (標準化偏回帰係数) は、2つの変数間の関連の強さを示している。***は統計的な有意水準 (p) が.001 以下であることを意味する。「.435」などの数値は一の位のゼロの省略表記であり、「0.435」などを表す。

【用語解説】

*1 関係流動性 … 「自分が所属する集団」や「対人関係」などの社会関係を選ぶ自由度の高さのこと。恋愛関係の流動性が高いことは、その社会で人々が自由に恋愛関係を選び、また必要に応じて関係を容易に解消できることを意味している。